

平成29年7月5日

平成29年度第4回教育委員会定例会会議録

鹿児島県教育委員会

平成29年度第4回教育委員会定例会会議録

日時 平成29年7月5日（水）  
14時00分～15時40分

場所 教育委員会室

出席者

古川教育長	寺園教育次長
島津委員	奥園学務課長
今村委員	小屋敷教職員課長
原之園委員	菊地義務校教務課長
石丸委員	前田元保健体育課長
	岩西橋社会教育課長
	松下文化財課長
	福田義務教育課特別支援教育室長
	寺前競技力向上対策室長
	石田尾高校総体推進室長
	福永総務福利課企画監
	岩越教職員課人事管理監
	堀之内教職員課人事管理監
	平田義務教育課指導監
	福留高校教育課指導監
	川原生徒指導監
	村久木教職員課参事
	山下人権同和教育課長補佐

議 決 事 項

件 名	提 案 理 由	審議の状況	採決の次第
<p>議案第1号 鹿児島県スポーツ推進審議会委員の任命について</p>	<p>県高等学校体育連盟会長、県議会文教警察委員会委員長及び県PTA連合会副会長との職交代に伴い、後任の委員を任命しようとするものである。</p>	<p>特 記 事 項 な し</p>	<p>決 定</p>
<p>議案第2号 鹿児島県社会教育委員の委嘱について</p>	<p>鹿児島県社会教育委員の職交代に伴い、後任の委員を委嘱しようとするものである。</p>	<p>特 記 事 項 な し</p>	<p>決 定</p>
<p>議案第3号 鹿児島県立博物館協議会委員の任命について</p>	<p>鹿児島県立博物館協議会委員の任期満了に伴い、次期の委員を任命しようとするものである。</p>	<p>特 記 事 項 な し</p>	<p>決 定</p>
<p>議案第4号 職員懲戒処分について</p>	<p>学校職員の非違行為について、教育公務員としての責任を問おうとするものである。</p>	<p>特 記 事 項 な し</p>	<p>決 定</p>

# 会 議 要 旨

## 1 開会

## 2 会議の公開等について

議案第1号，議案第2号，議案第3号及び議案第4号については，非公開で審議する旨，教育長から発議があり，全会一致で議決された。

## 3 平成29年度第3回教育委員会定例会の会議録の承認

承 認

## 4 その他

### (1) 鹿児島県公立学校教員等採用選考試験の出願状況について

(教職員課長) 鹿児島県公立学校教員等採用選考試験の出願者数，試験概要及び今後の日程等について説明

(島津委員) 今年の出願者数が2,346人で倍率が10倍を切っており，例年に比べると減っているが，民間企業では人手不足で採用に苦勞している状況であるので，羨ましい数字である。

教員の場合は，目的を持って試験に臨んでいるが，企業の場合はどこから引き抜かれるか分からないので，非常に熾烈な状況である。更に人手不足になると言われているので，今後先を見通したときに，そのような状況も勘案して採用を進めていただきたい。

(教職員課長) ここ10年間，2桁の受験倍率である。出願倍率は，昨年度より低くなっている。計算すると，9倍程度の出願倍率であろうかと思われる。

人材確保については，これまでは高い倍率で推移しているので，今後も専門性や情熱のある鹿児島県の教育に寄与していただけるような方々を採用してまいりたい。

(原之園委員) 小学校，中学校，高等学校等の中で出願者の増減の大きい校種・教科はどこか。また，久しぶりに試験が復活した教科等はあるのか。

(教職員課人事管理監) 全体の数としては，出願者数は40人程度減少しているが，採用枠が広がり，230人から260人に増えたことから，倍率も低くなったところである。

昨年度と比べると，小学校では，765人から779人に増えている。中学校では595人から532人と63人減り，高校では，596人から566人で30人減っている。特別支援学校では，134人から143人に増えているところであり，校種で状況が異なっている。

(教育長) 教科別ではどのような状況なのか。

(教職員課長) 高校の書道を2年ぶりに、実習助手の特別支援学校の担当を10年ぶりに募集している状況である。

(島津委員) 特別選考についてはどのような状況なのか。

(教育長) 最終的に確定してない状況であるので、現在話せる範囲で話していただきたい。

(教職員課長) 今年度からの「燃ゆる感動 かがしまスポーツ特別選考」については、対象を全校種に広げたところである。昨年度が25人の申請があり、今年度もほぼ同じような数の申請がなされているところである。

「障害者特別選考」については、昨年度と同様、今年度も申請者がいる。

「社会人特別選考」についても応募している人がいる。

「小学校英語特別選考」については、複数名が小学校受験者の中で、申請していただいている状況である。

(島津委員) 今年度は「燃ゆる感動かがしまスポーツ特別選考」で国体を見据えた採用をしているが、応募状況は昨年度とあまり変わっていないのか。

(教職員課長) 応募状況は、昨年度並みである。大幅な増減はない。

(教育長) 最終的に対象であるかどうか確定させなければならないが、現在、受験資格があるかどうかを確認している段階であるので、概数の話をさせていただいた。

(今村委員) 以前、ニュースで全国の教員が足りないという特集がされていた。教員が足りている地域と足りていない地域で色分けされていたが、鹿児島県は足りていない地域に入っているように見えた。足りていない基準の一つは、臨時雇用したくても応募がない学校があるという報告だったので、県レベルでなく、市町村レベルの話なのかとも思った。教員が足りないという状況の中で、鹿児島県は毎年これだけの出願倍率なのだが、そのニュースを見られた方はいらっしゃるのか。

(教職員課長) そのニュースは見ていないが、鹿児島県としては、実際に小学校と中学校で、臨時的任用教員に不足が生じたところがある。担任の不足はなかったが、加配教員に不足は生じた。

(今村委員) このニュースも単にアンケートによるものなのかもしれないが、全国に出てしまっているのだから、結果が定かでないのであれば、データが正しいかどうかは確認した方がよい。正式採用は倍率が約10倍であり、臨時的な部分とのミスマッチはないとは思っているが、教員が足りないことがないようにする方法などはあるのか。

(教職員課長) 今年度については、小中学校の特別支援学級で大幅な増加があり、予測はしていたが、その予測以上に増加した。  
今後は大学で新しく卒業される方、教育事務所や市町村教育委員会と連携して学級数の推移等を把握し、不足が生じないようにしたいと考えている。

(島津委員) 人手不足に関連して言うと、臨時的任用教員が余所に流れることも起こりうるのだから、その辺も含めて進めていただきたい。

(石丸委員) 臨時的任用教員は実際に何人いるのか。

(教職員課長) 臨時的任用教諭の状況については、5月1日現在で、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校合わせて、1,307人配置している状況である。

## (2) 平成29年度使用教科書採択事務について

(高校教育課長) 平成29年度使用教科書採択事務の概要、事務の流れ等について説明

(島津委員) 何年に1回行われるのか。定期的に行われているのか。

(高校教育課長) 高校の場合、1冊の教科書を2年間続けて使う場合もある。各学年で始めて使う教科書は、その前年度に採択することになっているので、基本的には毎年採択事務を行っている。

## (3) 地域創生人材育成プロジェクトについて

(高校教育課長) 地域創生人材育成プロジェクトの目的、指定校及びプラン内容等について説明

(島津委員) 良いプログラムだと思う。今までの普通の授業と違った特別な形で、課題を決めて取り組んでいただくのだが、これは全学年で行うのか。

また、このプログラムは1年間だけなのか。ある程度継続しないと勿体ないという気もする。学校や学年も、継続していくこと

で身に付くと思う。

(高校教育課長) 対象学年については、学校によって異なっている。鹿屋農業高校では、農業科1年生から3年生まで全ての学年で取り組んでいる。颯娃高校は、普通科の1年生、2年生、3年生ともに行い、機械電気科においても、それぞれ課題研究等の時間を利用して、学校全体で取り組んでいる。

この地域創生人材育成プロジェクトについては、3年間の継続事業としているが、学校の指定は1年間である。昨年度までもこのような取組は単発で行っているが、指定が終了した学校において、その後も引き続き事業として取り組んでおり、県教育委員会としても情報を提供するなど、事業が継続するよう支援していきたいと思っている。

(島津委員) 学校が変わるのであれば、今回指定された学校がこれをきっかけとして、このような能力を身に付ける教育を続けていただくことができれば良いと思う。

(高校教育課長) 例えば、野田女子高校も以前このような取組を行っていたが、これを基にして文部科学省の研究指定を受けることになった。また、学校同士で連携しているところもあるので、更に発展していくように支援していきたい。

(島津委員) 県外の学校等の連携もあると良い。

(原之園委員) 専門高校の活性化にとって非常に良い試みであり、皆が注目すると思う。その際、広報活動についてはどのように考えているか。また、それぞれの学校で発表会を行うと聞いたが、できればこの4校が集まって、それぞれの取組について発表する機会があれば、もっとこの取組は広がっていくのではないかと思う。

(高校教育課長) 5月に指定してから約2か月経ったところである。広報活動については、学校の生徒募集のPRにもなるので、学校のホームページ等で広報に取り組んでいるところである。県教育委員会としても、産業教育に関するフェアや会合等で宣伝しているところである。

4校集まったの発表会については、成果を広く周知するためにも検討していきたい。

(今村委員) 昨年のかごしまの魅力発信人材育成プランが上手くいったので、拡大してこのプロジェクトになったということによいのか。

(高校教育課長) 昨年度までは、専門高校の各学科の強みを生かしたプランとし

て指定してきたが、普通科でもこのようなプランを広げられないか検討した結果、昨年のかごしまの魅力発信人材育成事業の成果等を踏まえて、今回普通科にも拡大したところである。

(今村委員) 結果について、それぞれの高校ごとは「非常に良かったね」というふうになっているかもしれないが、その広がり是非常に大事になるかと思う。

また、県外等への連携ということで、以前テレビで全国高校生食育王選手権大会を見たのだが、あのような全国での取組となると、訴求効果や宣伝効果も大きいと思う。福井県が2007年から県の事業として行っているものであり、上手なやり方だと思う。県外との連携や鹿児島県が中心となって情報発信をできればよいと感じた。

(高校教育課長) 全国で高校生レストランという取組があり、調理学科のある学校がメインで調理コンテストに参加している。県立学校では調理学科はないが、昨年度の商業高校のフードグランプリにおいて、奄美高校が大賞を受賞した。いろいろなところに広報をして、食品加工部門で、ノミネートさせていただいた。県外の事業として、先進の福井県の取組を参考にさせていただきながら、どのようなことができるか考えていきたい。

(教育長) 農業高校の全国大会が平成30年にあるのか。

(高校教育課長) 全国の農業高校の農業クラブの全国大会を来年10月に鹿児島で行う。

(教育長) 高校生ものづくりコンテストは今週あるのか。

(高校教育課長) 高校生ものづくりコンテストについては、九州大会が今度の土曜日と日曜日にある。

(石丸委員) それぞれ8校8プランの応募の中から各2校が選ばれたのか。

(高校教育課長) そのとおりである。

(石丸委員) 農業系に偏っているように感じる。工業系などでアイデアを出して企業と開発する取組も最近行われているが、そのような幅広い応募の中で行っているのか。

(高校教育課長) どの高校からでも応募できるが、工業高校や商業高校はこれまでの県教育委員会の事業での指定が多かったことや今回は農業高校の応募が多かったことが理由である。鹿屋農業高校や市来農芸

高校については、取組はよく知られているが、事業に対する応募はなかったこともあり、プランの評価も高かったため、この2校の農業高校を指定したところである。

(石丸委員) 鹿児島東高校のプランで、特別支援学校との交流活動を通じた情報発信がある。鹿児島東高校は特別支援学校と併設されているので、親も子も交流があり、障害者を通じた視点を生かせるところなので、特別支援学校の方にも広がっていくとよいと感じた。つなぐという意味では、非常に良いものだと思う。

(高校教育課長) 鹿児島東高校は、高等特別支援学校と併設されているので、鹿児島東高校が取り組もうとしているまちづくり活動や観光マップ作成などにおいて、どのようにしたら障害のある方々がまちづくりに参加しやすくなるのかなどの視点も出てくると思う。そのような意味では、両学校で連携することになる。高等特別支援学校の生徒たちがどのような形で関われるのか検討していくことができると思う。

## 5 議案

議案第1号 鹿児島県スポーツ推進審議会委員の任命について  
(非公開)

議案第2号 鹿児島県社会教育委員の委嘱について  
(非公開)

議案第3号 鹿児島県立博物館協議会委員の任命について  
(非公開)

議案第4号 職員の懲戒処分について  
(非公開)

## 6 閉会